



平戸梨丘

発行：横浜市立平戸中学校 校長 阿部 亮一
横浜市戸塚区平戸町993-4 Tel.045-823-8272

準備の大切さ

副校長 宮内 浩一

今年の冬は暖かいと言う印象がありましたが、さすがに1月に入ってから寒さも厳しくなり、1月12日の夜には雪交じりの雨が降り、学校の池にもうっすらと氷が張るようになりました。3年生にとっては受験シーズン真っ只中で、健康管理に一層気を遣う日々かと思えます。

さて、年始早々の1月1日午後4時10分ごろ、石川県能登地方にマグニチュード7.6の地震が発生し、甚大な被害を受けました。未だに道路やインフラ等のライフライン、学校等の復旧の目途が立っておらず、先が見えぬ状況が続いております。被災された方々には、心からお見舞い申し上げると共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。今回の地震で大津波警報などが発令されたことを受け、TVの各局は地震中継に切り替え、避難を呼びかけました。その中で、ある局のアナウンサーは、「今すぐ避難！」「逃げて！」と大声で危険を呼びかけ、普段は感情をあらわにしないアナウンサーが、強い口調に変わったことに驚きました。しかし、それだけ危機が迫っているのだということが、ひしひしと伝わってくる瞬間でもありました。普段から危機を想定したアナウンスの訓練を重ねており、東日本大震災の教訓が生かされているのだと思いました。また、翌日の2日には羽田空港で旅客機と海上保安庁の航空機の衝突事故が発生しました。折しも海上保安庁の航空機は支援物資を新潟航空基地へ空輸する場面であり、残念ながら5名の職員が亡くなりました。旅客機の乗客乗員は怪我をした方が数名いましたが、全員命に別状なかったことが不幸中の幸いでありました。今回の事故で旅客機のCAは機器の故障で避難指示を機長に仰げず自分たちの判断で避難させねばならぬ状況でした。そのような中、一人の犠牲者もなく全員が避難できたことに報道では「奇跡の脱出」とも言われていましたが、実際にはCAの的確な状況判断と対応力があったからだと思えます。3カ所の脱出用のシューターを展開しましたが、特に機体最後尾左側ドアを開放したことと避難時間が約1/3になり、また機内のパニックコントロールもできており、18分という短時間で避難完了につながったようです。CAはさまざまな状況を想定した脱出訓練を実施しているようで、訓練には機長と連絡が取れないケースも含まれており、日々ケーススタディーをしてきたその成果が出たのだと思えます。

本校では年に2回、火災と地震を想定した避難訓練を実施しております。また前号の学校だよりでお伝えした通り、12月の授業で防災意識を高めるためマイ・タイムラインシート（避難行動計画）の作成等も行っております。今後もいざという時のために、想定外にも対処できるようしっかりとした準備が日ごろから必要であることを痛感しております。職員一同地震や災害に関する知識をさらに高め、生徒の学校生活における安全確保を、一層強化して参ります。